

2 京都市経済の概況

(1) 景気動向

【DI (Diffusion Index) について】

増加、上昇などと回答した企業の企業割合から、減少、下降などと回答した企業割合を差し引いた数値を、0 から 100 までの範囲に収まるように基準化した数値。50 を基準として、それより上である場合は、上向き傾向を表す回答が多いことを示し、下である場合は、下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

① 国内景気

平成 24 年は、デフレ脱却が進まず、特に卸売業、小売業が低価格競争に苦しんだ。製造業も、同業他社との競争激化に加え、円の高止まりや欧州・中国経済の低迷で輸出が伸び悩み、厳しい状況が続いた。しかし、平成 24 年 11 月の政権交代以降、新政権の経済政策への期待から、円安・株価上昇の傾向となり、景気回復の兆しが見え始めている。

② 市内中小企業の景気動向

京都市中小企業経営動向実態調査によると、市内中小企業の企業景気 DI は、東日本大震災により平成 23 年 4～6 月期に大幅に悪化したが、平成 23 年 7～9 月期以降、徐々に景況感が持ち直し、4 期連続で改善した。しかし、平成 24 年 7～9 月期以降、景気悪化に加えて競争激化に伴う受注減や販売単価の下落等により 2 期連続して悪化した。平成 25 年 1～3 月期には、新政権の経済政策への期待感から再び上昇に転じた。

製造業は、平成 24 年 4～6 月期までは東日本大震災による落ち込みから、緩やかな回復が続いていた。7～9 月期以降は、従来からの原材料価格の上昇に加え円高が急速に進展し、2 期連続で低下したが、平成 25 年に入り円高の緩和や政府の経済対策への期待などから上昇に転じている。業種別では、輸出が

比較的盛んな金属と機械が円の高止まりの影響を受けて年間を通じて低下している。

非製造業は、東日本大震災直後の自粛ムードが収まるにつれて消費が回復に向かい、それに伴い平成 24 年前半は企業景気 DI が上昇した。その後、近隣諸国との関係悪化で外国人観光客が減少したことなどから、年後半は回復傾向が鈍化し、ほぼ横ばいに推移している。業種別では、建設が住宅需要の回復を受けて年後半から上昇が続いているほか、情報通信が 50 を上回る水準で推移した。

生産加工量・販売量 DI は、企業景気 DI とほぼ同様の動きをしている。

経常利益 DI は、製造業で、企業景気 DI の水準を大きく下回って推移している。近年、企業景気 DI が上昇しても経常利益 DI が上昇しないといった動きの乖離が見られる。

製品・加工単価、販売単価 DI は、ここ数年下降局面で横ばいに推移していたが、平成 25 年に入り上昇している。しかし、物価上昇によるものとは考えにくく、原材料価格の上昇分の転嫁が一部の企業で進んだ結果と思われる。

仕入単価 DI は、近年は上昇局面でほぼ横ばいに推移してきたが、平成 24 年 10～12 月期以降上昇している。これは、為替が円安に振れたことによる輸入原材料品の価格上昇を反映したものと考えられる。

製品・商品在庫量 DI は、過剰局面でほぼ横ばいに推移してきたが、平成 24 年 10～12 月期以降は過剰感の解消に向かっている。

雇用人員 DI は、平成 24 年は、製造業が過剰局面で、非製造業が不足局面で推移してきた。平成 25 年に入り、製造業の過剰感が解消し、不足局面に向かいつつある。

資金繰り DI は、苦局面で推移しているが、緩やかな緩和傾向が続いている。

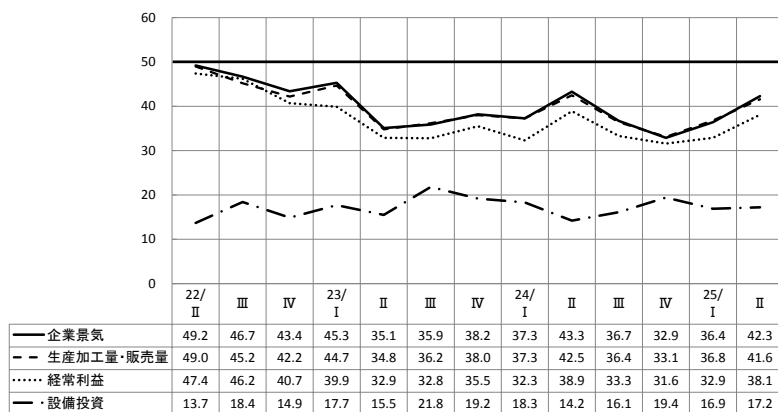
同業他社との競争 DI は、激化局面での推移が続いており、ほぼ変化はない。

このように、新政権が発足した平成 24 年 10～12 月期以降、総じて改善方向への変化が見られる。

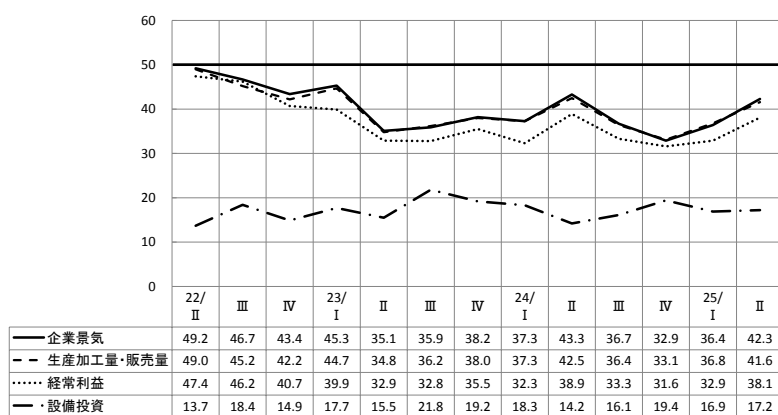
(資料) DI 値の推移 ※製造業は、設備投資 DI を含む。

I : 1～3 月, II : 4～6 月, III : 7～9 月, IV : 10～12 月 : 平成 25 年 I 期 までは実績値, 同年 II 期 は見通し値

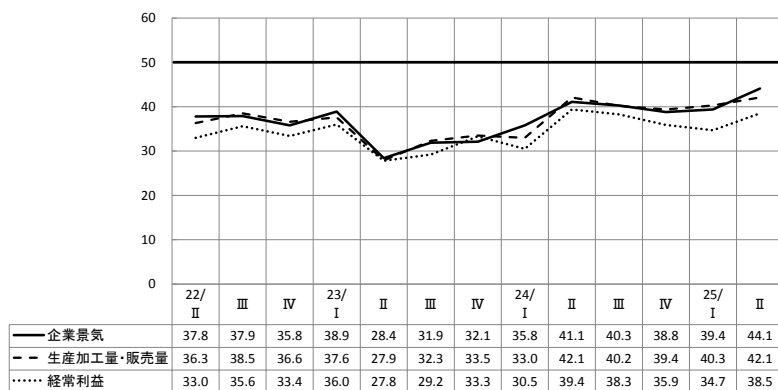
全産業



製造業



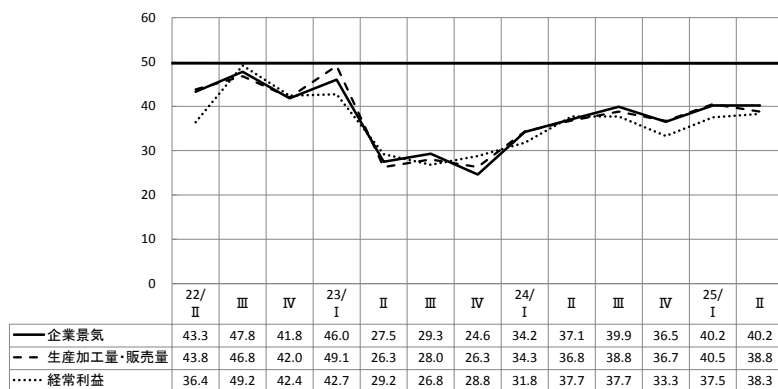
非製造業



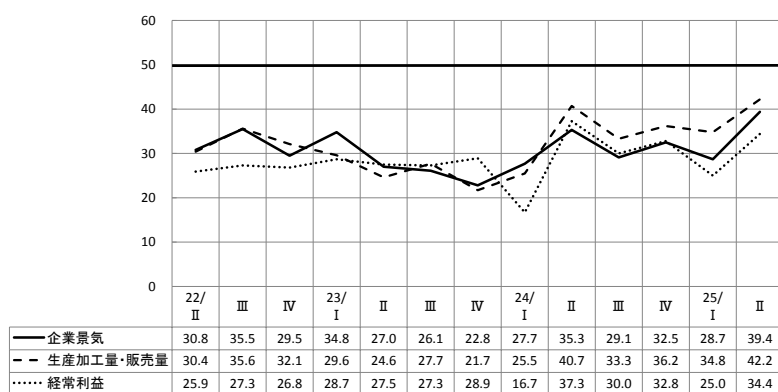
非製造業 DI の推移

I : 1～3 月, II : 4～6 月, III : 7～9 月, IV : 10～12 月 : 平成 25 年 I 期 までは実績値, 同年 II 期 は見通し値

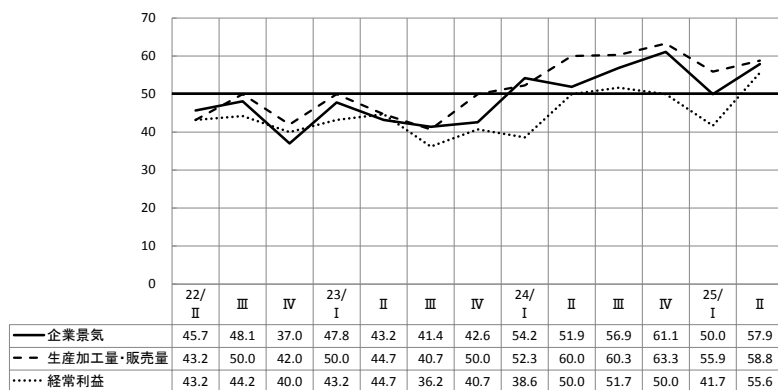
卸売



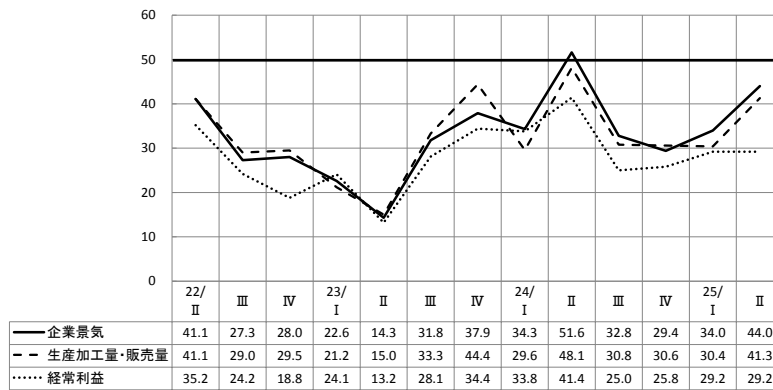
小売



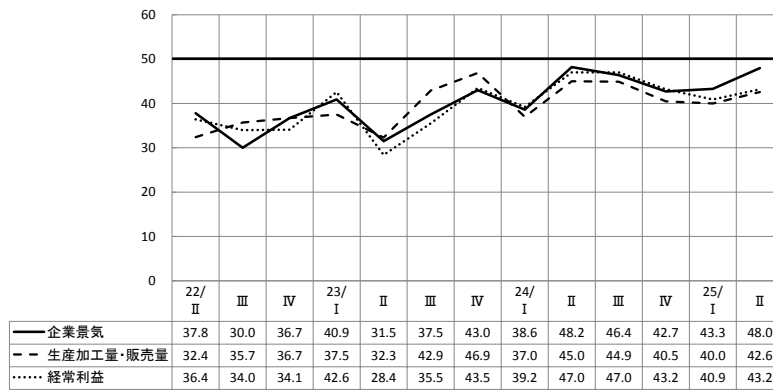
情報通信



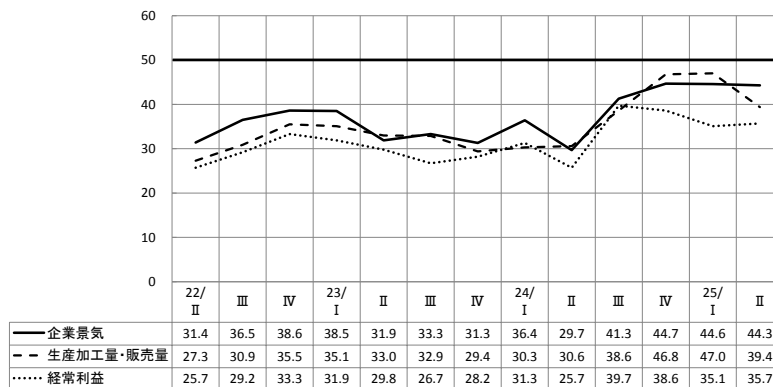
飲食・宿泊



サービス



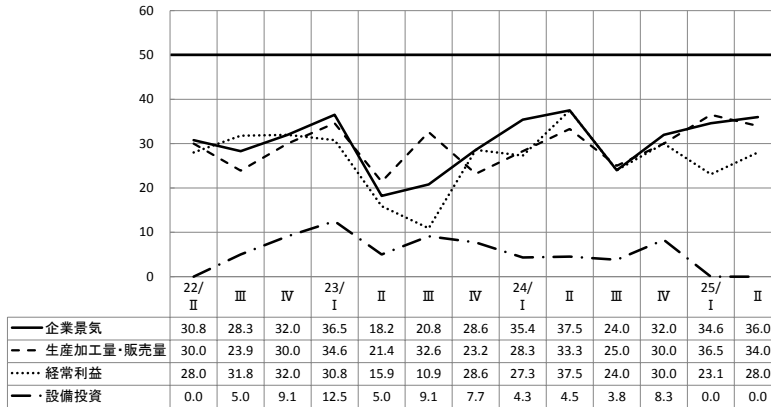
建設



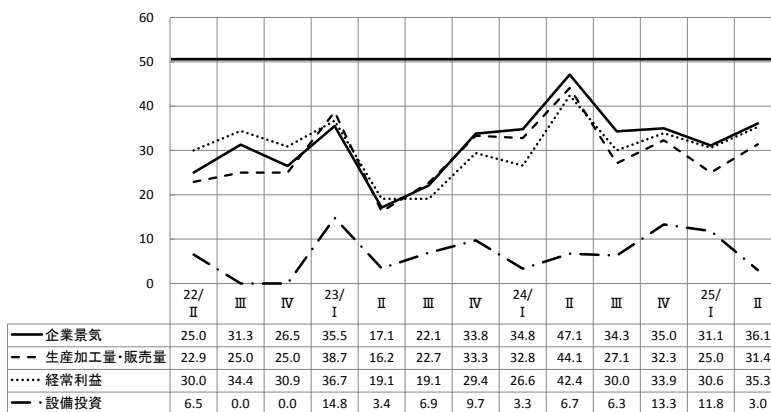
製造業DIの推移

I：1～3月，II：4～6月，III：7～9月，IV：10～12月：平成25年I期 までは実績値，同年II期 は見通し値

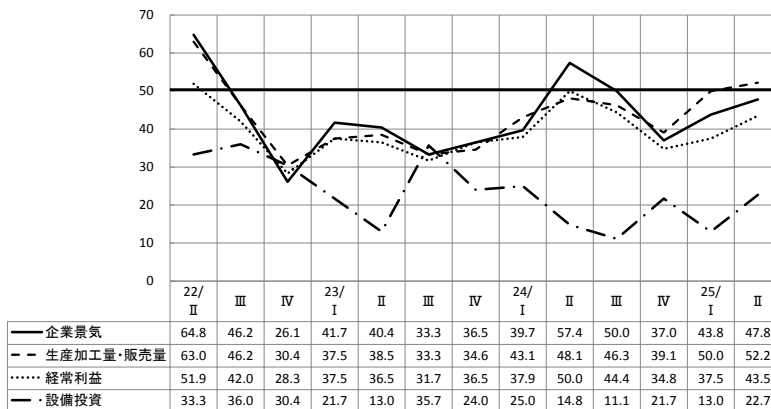
西陣



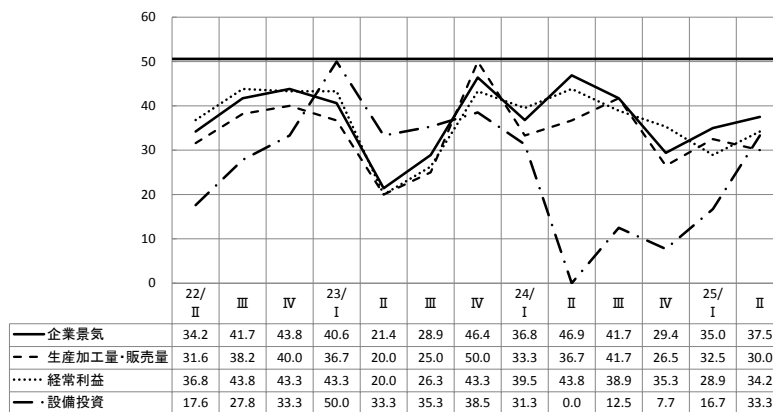
染色



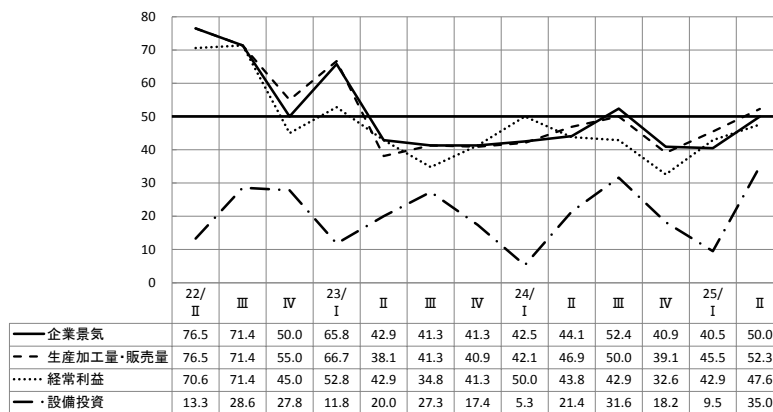
印刷



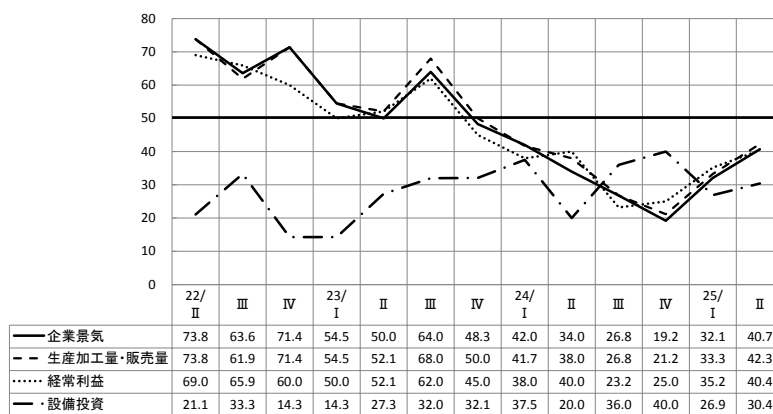
窯業



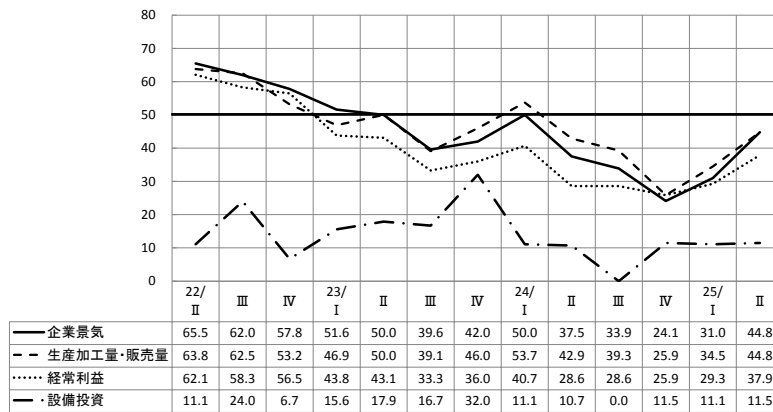
化学



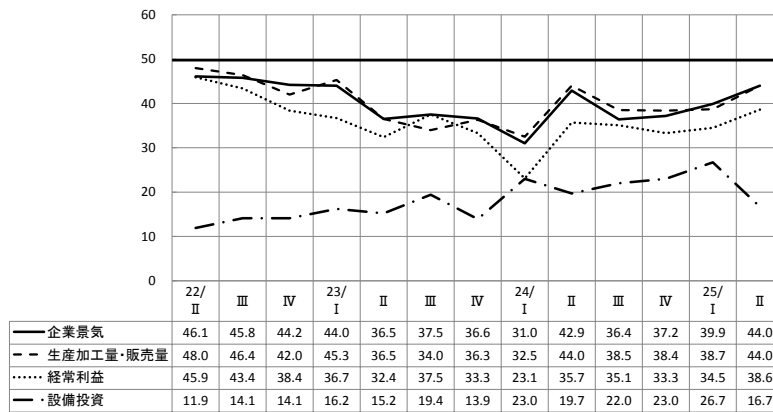
金属



機械



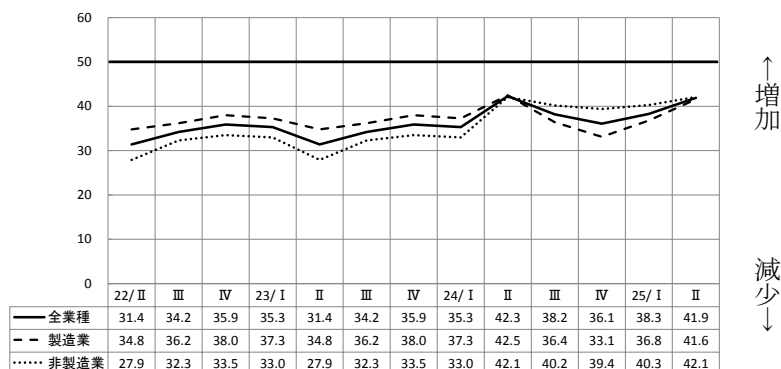
その他の製造



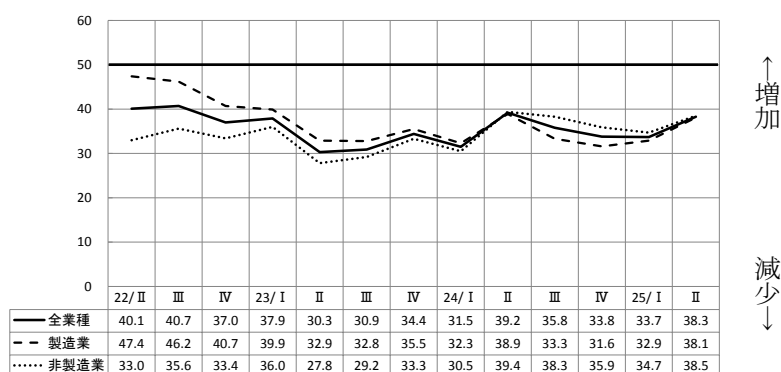
その他 DI の推移

I : 1～3 月, II : 4～6 月, III : 7～9 月, IV : 10～12 月 : 平成 25 年 I 期 までは実績値, 同年 II 期 は見通し値

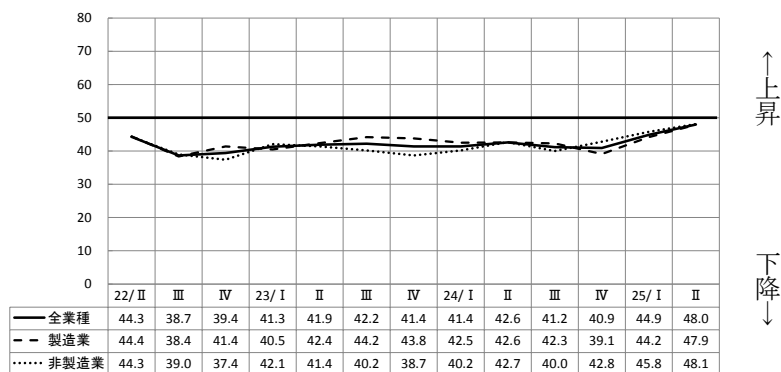
生産加工量・販売量



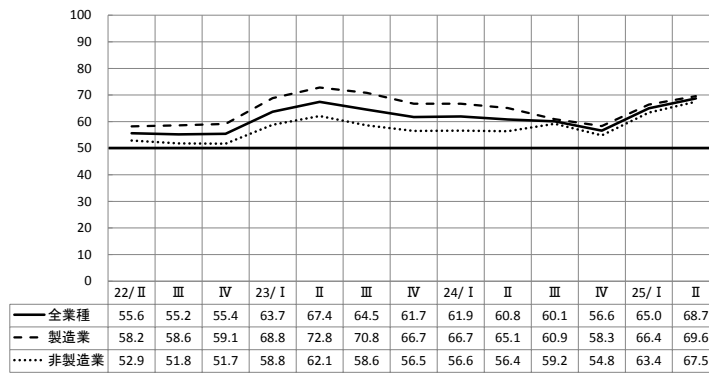
経常利益



製品・加工単価, 販売単価



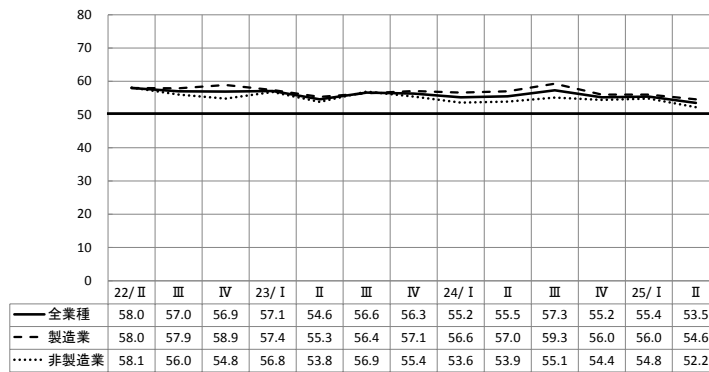
仕入単価



↑ 上昇

↓ 下降

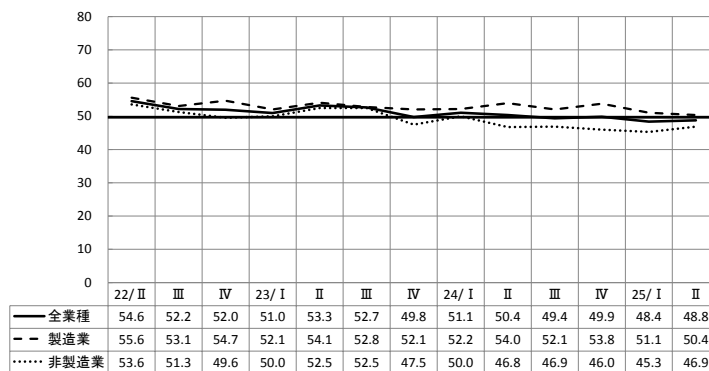
製品・商品在庫量



↑ 過剰

↓ 不足

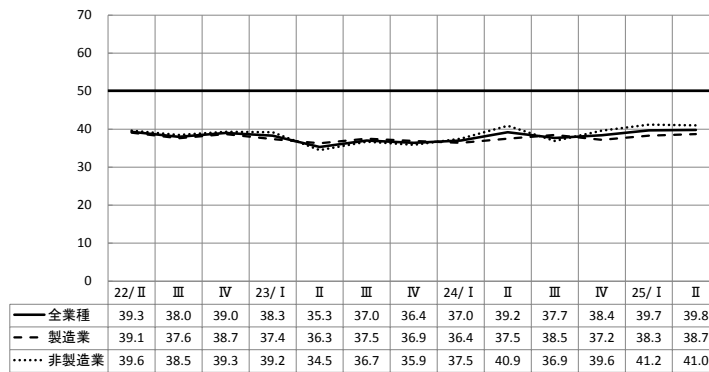
雇用人員



↑ 過剰

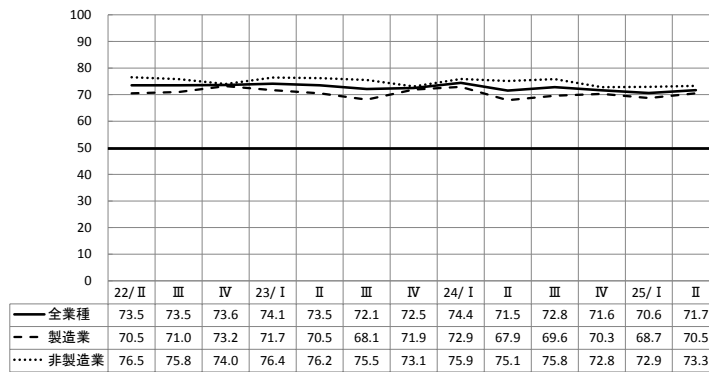
↓ 不足

資金繰り



↑ 楽
↓ 苦

同業他社との競争



↑ 激化
↓ 緩和

(2) 消費動向

◆ 消費支出はやや増加

家計調査年報で勤労者世帯の家計消費支出を見ると、京都市の平成 24 年の月平均消費支出は 304,179 円で、前年比で 6.0%減少した。近年は小幅の増加傾向であったが、減少に転じた。

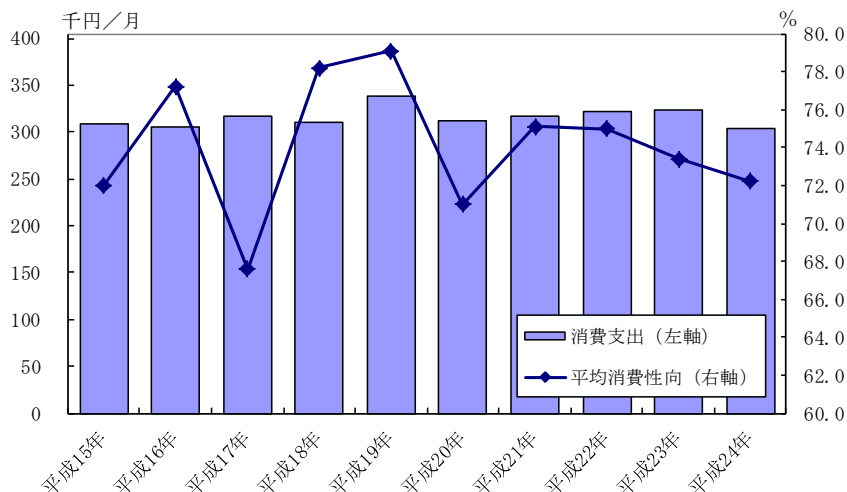
また、京都市の平成 24 年の平均消費性向（可処分所得に対する消費支出の割合）も 72.2%と、前年比で 1.2 ポイント減少した。将来不安等により、可処分所得の減少以上に消費支出が減少している〔表 I-2-1、図 I-2-1〕。

◆ 百貨店販売額は減少

商業販売統計によると、平成 24 年の京都市内百貨店販売額は、2,372 億 46 百万円である。

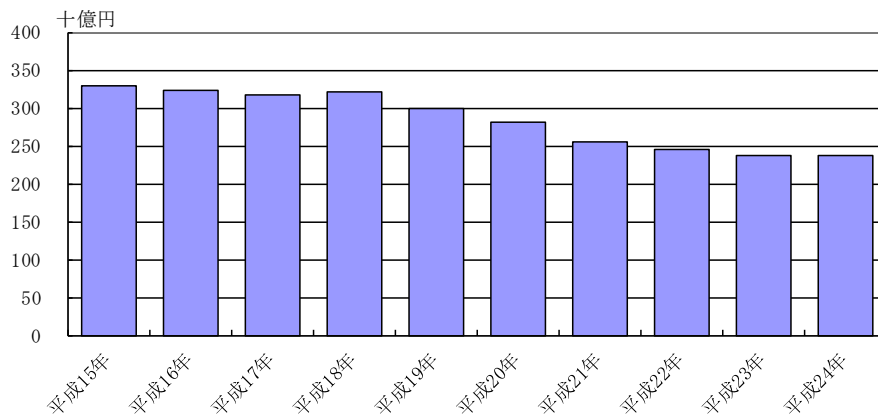
平成 18 年には約 3,200 億円であったが、平成 19 年以降減少傾向が続いている。特に、平成 20 年のリーマンショックの影響を受け、平成 21 年は前年比 -9.5%と大きく減少した。平成 24 年はほぼ横ばいだが、消費者の購買意欲は依然低迷している。〔表 I-2-1、図 I-2-2〕。

図 I-2-1 京都市の消費支出，平均消費性向の推移



資料：総務省「家計調査年報」（二人以上世帯のうち勤労者世帯）

図 I-2-2 京都市内の百貨店販売額の推移



資料：京都市総合企画局「京都市統計情報」

表 I-2-1 その他の主要指標

	鉱工業生産指数 a)	有効求人倍率	失業率 b)	消費者物価指数	百貨店販売額	貸出金残高 c)
	平成17年平均=100	年平均	(%)	平成22年平均=100	(百万円)	(億円)
平成15年	91.6	0.63	5.9	101.3	328,027	50,729
平成16年	97.1	0.87	4.7	101.3	322,131	49,568
平成17年	100.0	0.99	4.5	100.9	317,168	49,372
平成18年	106.7	1.12	4.4	100.8	320,180	49,352
平成19年	106.9	1.01	3.9	100.8	299,194	47,891
平成20年	106.2	0.92	4.2	101.8	281,108	49,411
平成21年	83.7	0.58	5.4	100.9	254,430	48,082
平成22年	98.3	0.59	5.7	100.0	244,312	46,376
平成23年	91.9	0.68	4.8	100.1	237,574	45,496
平成24年	90.6	0.84	4.9	100.0	237,246	45,667

資料：京都市総合企画局「京都市統計情報」、総務省「労働力調査」（失業率）

a) 京都府の数値 b) 近畿の数値 c) 京都銀行協会加盟社員銀行のみの数値

※厚生労働省京都労働局からの資料提供

表 I-2-2 全国及び京都市の消費支出，平均消費性向の推移

(単位：%，円／月)

	平均消費性向		消費支出	
	全国	京都市	全国	京都市
平成15年	74.1	72.0	326,566	308,550
平成16年	74.3	77.2	331,636	304,946
平成17年	74.7	67.6	329,499	316,253
平成18年	72.5	78.2	320,231	310,376
平成19年	73.1	79.1	323,459	338,825
平成20年	73.4	71.0	324,929	312,060
平成21年	74.6	75.1	319,060	317,310
平成22年	74.0	75.0	318,315	322,331
平成23年	73.4	73.4	308,838	323,464
平成24年	73.9	72.2	313,874	304,179

資料：総務省「家計調査年報」（二人以上世帯のうち勤労者世帯）

(3) 雇用動向

京都市の有効求人倍率は、平成18年の1.12倍をピークに減少に転じ、リーマンショック直後の平成21年には0.58倍まで低下した。その後、緩やかに回復を続け、平成24年には0.84倍まで回復している。しかし、1.0倍には達しておらず、依然として厳しい状況が続いている。

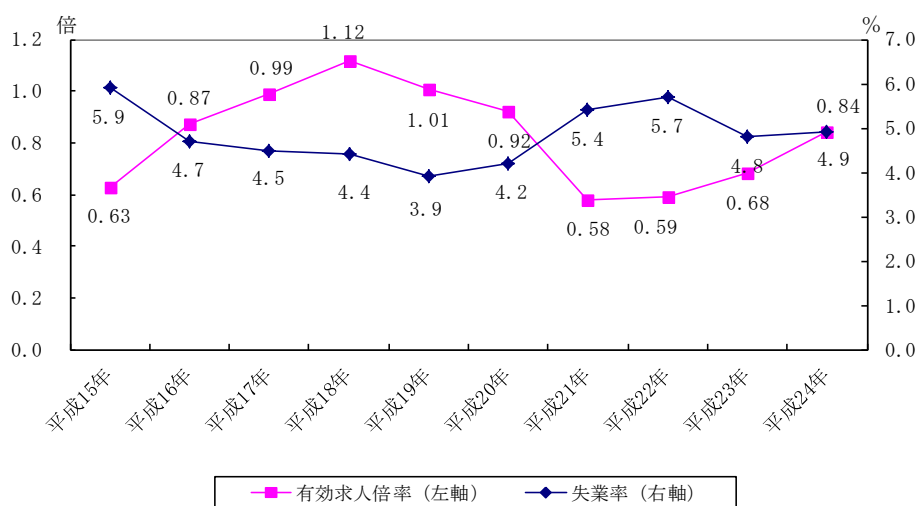
近畿の完全失業率は、平成15年以降は改善が続き、平成19年には3.9%まで低下したが、リーマンショックの影響を受け、平成22年には5.7%まで上昇した。

しかし、国の雇用対策などが功を奏し、平成23年は前年比0.9ポイント減の4.8%まで改善し、平成24年も微増の4.9%に留まっている。〔表Ⅰ-2-1、図Ⅰ-2-3〕

(4) 物価指数

京都市の消費者物価指数（平成22年平均＝100）は、平成20年は一旦上昇したが、平成22年までは減少し、デフレ傾向が続いていた。平成23年以降はほぼ横這いに推移している。〔表Ⅰ-2-1、図Ⅰ-2-4〕

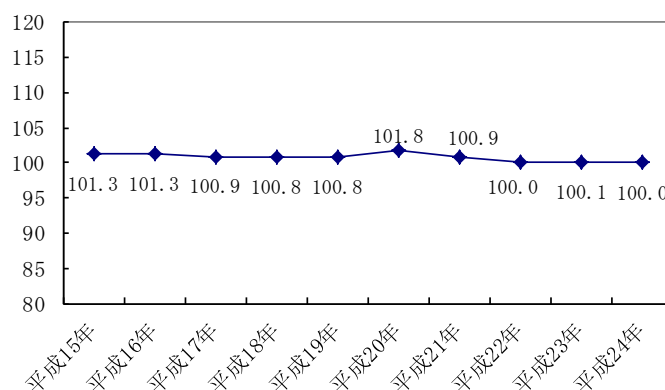
図Ⅰ-2-3 京都市の有効求人倍率及び近畿の完全失業率の推移



資料：有効求人倍率—京都市総合企画局「京都市統計情報」

失業率（近畿圏）—総務省「労働力調査」

図Ⅰ-2-4 京都市の消費者物価指数の推移（平成22年＝100）



資料：京都市総合企画局「京都市統計情報」

(5) 企業倒産

平成 24 年の全国の倒産（負債総額 1,000 万円以上、任意整理を含む）は 12,124 件（対前年増減率△4.8%）、負債総額は 3 兆 8,345 億 72 百万円（同 6.7%）である。倒産件数は、4 年連続で減少している。倒産件数の減少要因としては、緊急保証制度や金融円滑化法などの金融支援効果が挙げられる。負債総額の増加要因は、負債 1,000 億円以上の大型倒産が平成 23 年は 3 件だったのに対し、平成 24 年は 4 件に増加していることが挙げられる。

また、京都市内の倒産（負債総額 1,000 万円以上、任意整理を含む）は 257 件（対前年増減なし）、負債総額は 293 億 98 百万円（対前年増減率△14.7%）である。倒産件数が横ばいに留まっている理由は、緊急保証制度や金融円滑化法などの金融支援効果に加え、全国で発生している震災関連倒産が市内では 2 件に留まっていることが挙げられる。

一方、負債総額の減少要因は、大口倒産が少なく、負債額 10 億円以下の小口倒産の割合が高かったことが挙げられる〔表 I-2-3、図 I-2-5〕。

表 I-2-3 倒産件数及び負債総額の推移（負債総額 1 千万円以上）

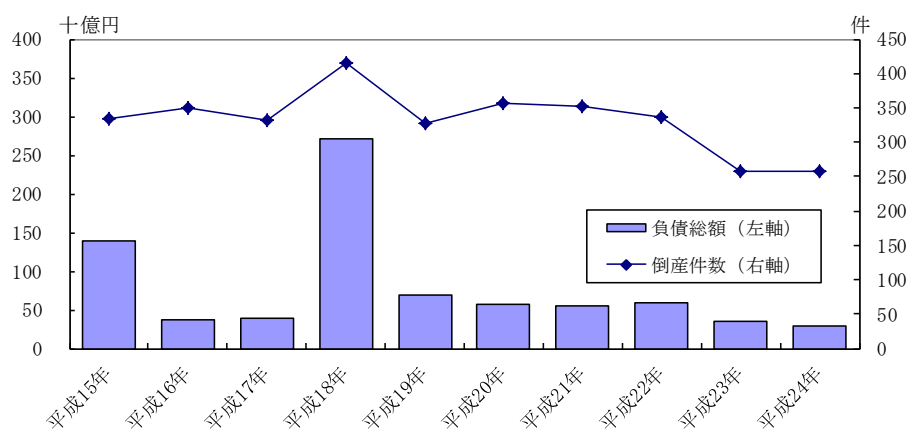
（単位：件、百万円）

年 次	京 都 市		近 畿 地 区		全 国	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
平成15年	334	139,865	3,799	2,791,453	16,255	11,581,841
平成16年	349	36,148	3,406	1,879,370	13,679	7,817,675
平成17年	332	39,726	3,502	1,706,399	12,998	6,703,458
平成18年	415	270,398	3,621	1,084,240	13,245	5,500,583
平成19年	327	69,833	3,750	839,062	14,091	5,727,948
平成20年	357	56,821	3,926	1,117,377	15,646	12,291,953
平成21年	352	54,630	4,186	1,238,870	15,480	6,930,074
平成22年	337	59,679	3,706	923,776	13,321	7,160,773
平成23年	257	34,477	3,456	492,215	12,734	3,592,920
平成24年	257	29,398	3,075	839,974	12,124	3,834,572

資料：株式会社東京商工リサーチ

※任意整理による倒産を含んでいる。

図 I-2-5 京都市の倒産件数及び負債総額の推移（負債総額 1 千万円以上）



資料：株式会社東京商工リサーチ

※任意整理による倒産を含んでいる。